

釧路湿原の文学史 盛 厚三 著

明治時代に釧路に住んだ石川啄木、大正時代に活躍した釧路生れの中戸川吉二、そして原田康子がこの地を舞台にした『挽歌』などの多くの作品は、いまなおお生き続けている。そして新たに生まれていくことを示した作家は、根釧原野を主題に農民文学を書き続ける釧路生れの玉井裕志、釧路に生れアイヌ民族としてこの地を見続けて多くの随筆集を残したチカップ美恵子、この地を舞台に数々の作品を書き続ける釧路生まれの直木賞作家桜木紫乃、別海生れの直木賞にノミネートされた作家河崎秋子、大型新人として期待される久栖博季らである。ここでは、地元で活躍する多くの文学者たちの作品を紹介できなかったが、これからも、釧路湿原、そしてこの地を舞台にした様々な作品が生まれていくことだろう。(あとがきより)



目次

- 一 伝説、そして豊葦原の時代——明治以前 6
- 二 谷地、泥炭地と呼ばれたころ——明治時代 10
- 三 釧路原野の時代——大正時代 18
- 四 原野開拓の時代——昭和初期 29
- 五 タンチョウ発見と国立公園誕生——昭和十年代 42
- 六 釧路原野の新時代——昭和二十年代 59
- 七 釧路原野から釧路湿原へ——昭和三十年代 80
- 八 湿原開発か自然保護か——昭和四十年代 102
- 九 根釧原野のなかの釧路湿原——昭和五十年代 133
- 十 釧路湿原国立公園誕生——昭和六十年代 159
- 十一 ラムサール条約釧路会議の時代——平成元年代 179
- 十二 「文学の街・釧路」の誕生——平成十年代 204
- 十三 女性作家活躍の時代——平成二十年代 221
- 十四 釧路湿原文学の未来——平成三十年から令和の時代へ 246
- 「釧路湿原の文学史」あとがき 257
- 釧路地方文学年表（一八〇〇～二〇二二） 259
- 「釧路地方文学年表」あとがき 309

おわりに 310

人名索引（五十音順） 318

盛 厚三（もり・こうぞう）

略歴

1947（昭和22）年、釧路市生れ。日本近代文学研究者。元『北海文学』、『舳板』同人、同人誌『北方人』（発行・北方文学研究会）主宰。

〔著書〕『中戸川吉二ノート』（1994年、小谷デザインプランニング）、『木版彫刻師伊上凡骨』（2011年、徳島県立文学書道館）、『「挽歌」物語—作家原田康子とその時代』（2011年、釧路市教育委員会）。

〔編著〕『没後15年 文芸評論家・小松伸六の仕事』（2021年、北方文学研究会）

〔共著〕『釧路湿原の長谷川光二—日本のソロー』（2012年、志学社）、『中戸川吉二作品集』（2013年、勉誠出版）。

〔論考〕「フリッツ・ルンプ物語—日本美術研究家・波乱の生涯」（『フリッツ・ルンプと伊勢物語』2013年、関西大学出版部）、「釧路・根室地方の作家と文学」「十勝・帯広地方の作家と文学」他（『北海道文学事典』2013年、勉誠出版）ほか多数。

書店番線	発行：藤田印刷エクセレントブックス TEL0154-22-4165 FAX0154-22-2546	
月日	<h1 style="text-align: center;">釧路湿原の文学史</h1> <p style="text-align: center;">盛 厚三 著</p> <p style="text-align: center;">定価2,200円(税込) ISBN 978-4-86538-140-5 C0095 ¥2000E</p>	
冊		
	2022年8月14日 第1刷発行 発行所 藤田印刷エクセレントブックス 判型 A5判(320頁) 印刷・製本 藤田印刷株式会社	

ご注文はJRCへ FAX03-3294-2177まで